3 人間関係

小学校高学年から中学校にかけて,児童生徒は,心身ともに発達が著しく,他の人との結び付きを強く求めるようになる。反面,自我の確立を求め,自己の生き方についての関心が高くなり,人生をよりよく生きたいという内からの願いが強くなってくる。そして,この時期の児童生徒の交遊関係は,広がりをもち,それまで,大きな影響をもっていた親や教師の存在は,相対的に小さくなる。学級や学校のさまざまな集まりを通じてできた仲間集団が,この時期の児童生徒にとって大きな影響を与えるようになる。親や教師に対しては,反発したり,批判的となっても,仲間集団の言葉や評価を意識した行動をとることが多くなる場合がある。

_	_					_		
	[陥!	J #5	すい	問題	行	動等	į l

- いじめ
 - ・冷やかしやからかい
 - ・言葉での脅し
 - ・暴力
 - ・仲間はずれ
 - ・持ち物隠し
- 等
- いじめ等の問題行動に対する傍観者 的態度や無関心
- 性への強い関心と反発
- 家出 など

	区分				
	友人関係をめぐる問題	10.3	21.1		
学校生活に起因	教師との関係をめぐる問題	2.1	1.4		
	その他	6.6	20.0		
家庭生活に起因	親子関係をめぐる問題	16.3	8.2		
	その他	12.7	8.8		
本人の問題に起因	病気など	36.5	35.3		
その他		15.6	8.2		

「生徒指導上の諸問題の現状について」文部科学省 / 平成 14 年

生徒指導の三機能(坂本昇一)

・自己決定の場を与える(判断力)

(自発的な意欲)

(共感的理解)

・自己存在感を与える

・人間的ふれあいを基盤とする

その背景や要因として,社会全体の価値観の混迷やモラルの低下など学校外の要因,そして「児童生徒が主体的に考え判断し行動する価値観が形成されているか,また,そのことが十分に機能しているか,教師の指導力は・・・」など学校内の要因に分けることができる。

【 「道徳の時間」の指導の基本方針にかかわって 】

- (1) 道徳の時間の特質を理解する
 - ・ねらいとのかかわりにおいて自己を見つめる
 - ・道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚する
 - ・人間としての生き方についての自覚を深める
 - ・主体的に道徳的実践力を身に付けていく
- (2)信頼関係や温かい人間関係を促す(共感的理解)
 - ・学級経営と深くかかわることができるようにする
- (3)児童生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫する(自発的な意欲)
 - ・児童生徒自らが時と場に応じて望ましい道徳的行動がとれるような内面的資質を高める
- (4)児童生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫する(自己決定の場,共感的人間理解)
 - ・児童生徒一人一人の感じ方や考え方を大切にする
 - ・四つの視点(自分自身,他の人,自然や崇高なもの,集団や社会)を通して児童 生徒一人一人が自分の問題として受け止められるようにする
- (5)道徳の時間が道徳的価値の自覚を深めるかなめとなるよう工夫する

(自己決定の場,自発的な意欲,共感的理解)

- ・他の教育活動で行う体験活動と密接に関連させる
- ・校長や教頭の参加,他の教師との協力的指導,保護者や地域の人々の参加や協力を得る
- (6)指導に当たっての基本的姿勢について理解を深める(共感的理解)
 - ・児童生徒と共に考え、悩み、感動を共有していくという姿勢で授業に臨む

思春期にある小学校の高学年や中学校では,児童生徒の悩みや心の揺れ,学級や学校生活における具体的事柄や葛藤などの課題等を道徳の時間等で積極的に取り上げ,人間の心や生き方,在り方等について話し合い,自己や他者との関係を深く見つめられるよう指導することが大切である。

(1)いじめの指導に生かす

いじめは,役割交代や対等の関係で単発的に行われる「あそび」「けんか」「ふざけ」とは異なって,一方的かつ継続的に,身体的・心理的な攻撃を加え,相手が深刻な苦痛を感じているものをいう。いじめは,児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼし,生命も奪いかねない人権にかかわる重大な問題である。

無視,物隠し,対等でない力関係,からかい,ひやかし,脅し,暴力などいじめの事象は様々であり,複合しながら長期化しエスカレートすることも多い。軽い・重いなどという程度の問題ではなく,いじめは人間として絶対許されない行為であるという毅然とした態度での指導が必要である。

こうした場合の指導として,まず,状況把握を行い,いじめられている側の立場に立って,当事者への個別指導をとることが多い。先にも述べたように,いじめの事象は様々であるが,その原因やきっかけも様々であるから,一様にとらえることはできない。まずは,当事者の話をよく聞き,いじめる側の児童生徒には,その行為がいかに相手を傷つけることなのかを理解させなければ,解決にはならない。

また、当事者だけの問題ではなく、周りに傍観者、無関心な者がいることが多い。

児童生徒は,いじめがいけない行為だということは認識している。しかし,その痛みを真に共感しようとする態度に欠けていたり,自らの利害を超えて,勇気ある行動に踏み出せずに傍観者でいたりするために,繰り返される場合が多い。これまでは,学級指導において,お互いが認めあえる学級集団づくりをすすめることに重点を置きながら,いじめの問題の指導を行ってきた。しかし,どちらかといえば事後指導になることも多く,未然防止となる指導が大切である。

そこで,道徳の時間では,人権尊重の観点から,被害者,加害者,観衆,傍観者, それぞれの立場から人間の心について考え,いじめを許さない,なくしていこうと する行動ができる児童生徒を育てることが必要である。表面的に,「いじめはいけ ない」という指導にならないように,身近に起こりそうな事象を扱う資料を活用し たり,役割演技などの技法を積極的にとりいれるなど,共感できる授業の工夫を行 うことが大切である。

特に,傍観者の「やめてあげて」という勇気ある一言が,いじめの抑制につながるということを児童生徒に理解させることは,たいへん効果的だと考えられる。

	小学校	中学校	高等学校	盲・ろう・養護学校
1位	冷やかし , からかい	冷やかし , からかい	冷やかし , からかい	言葉での脅し
2 位	仲間はずれ	言葉での脅し	言葉での脅し	冷やかし,からかい
3 位	言葉での脅し	暴力	暴力	暴力
4 位	暴力	仲間はずれ	仲間はずれ	たかり
5 位	持ち物隠し	持ち物隠し	たかり	仲間はずれ

いじめの態様 (公立学校)(平成13年度)

「生徒指導上の諸問題の現状について」文部科学省 / 平成 14 年

- (1) 主題名 強い意志 [中学校1-(2)] 関連項目 [4-(4)]
- (2)ねらい 何事にも勇気を持って取り組もうとする態度を育てる。
- (3)資料名 「松本君への手紙」(出典:道しるべ2 正進社)

休み時間に池田君の弁当を放り投げ、にらみ返す池田君の頭を押さえ、床に落ちた弁当を 食べさせようとする武藤君。まわりではやし立てる数人の武藤君の仲間。黙って見ているク ラスの中で、「やめろ!」と武藤君に飛びかかっていった松本君。2人のケンカを止めた後、 散らばった弁当を黙って片づけるみんな。数日後、松本君に差出人のない手紙が届いた。

(4)学習指導過程		
	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
	1 勇気ある行動	これは勇気ある行動だと思ったこと	「勇気」とは,どんなも
	とは,どんなも	を出し合ってみよう。	のか ,これまでの生活を
導	のか出し合う。	・席をゆずる	振り返って考えさせ発
		・けんかをとめる	表させる。
λ		・断る勇気(喫煙,飲酒,万引き)	
	2 資料を読んで	弁当を床に投げつけられた時の池田	池田君の気持ちを理解
	池田君の気持ち	君の気持ちを考えてみよう。	させる。
	を考える。	・悔しい	気の弱い池田君だから
		・お母さんがせっかく作ってくれたの	いじめても大丈夫だと
		に	いうような,心の醜さ
	っ *** ** ** は / **		が ,いじめの土壌になる
	3 松本君はどんな気持ちから武	松本君はどんな気持ちから武藤君に	ことをおさえる。
	藤君にかかって	飛びかかっていったのだろうか。	松本君の気持ちに共感
	^{膝右にかかって} いったかを考え	・池田君がかわいそうだ	させる。
	_	・弱い者いじめをする武藤君が許せな	
展	る。	l1	
	4 床に散らばっ	床に散らばった弁当を黙って片づけ 	周囲の生徒たちの無関
開	た弁当を片づけ	たみんなの気持ちは、どんなものだ	心な態度が武藤君の行
	たみんなの気持	ったのだろうか。	為を増長させたことを
	ちを考える。	・池田君がかわいそう	理解させる。
		・松本君の勇気に比べ自分が情けない	-271 - 2 - 3
		(T.) E (2) 20 (E) 20 (
	5 なぜ,松本君	松本君へ手紙を出した人はどんな気	自分が変わるきっかけ
	へ手紙を書いた	持ちで出したのだろう。	を松本君の行動からつ
	のか,その気持	・松本君の勇気を称賛したい	かんだことを理解させ
	ちを考える。	・勇気を出せなかった自分を恥じる	る。
		・松本君のようになりたい	
	- I- W		10.1 = - /==
	6 授業の感想を		松本君の行動や、松本君
	書いてまとめを	の授業の感想を書いてみよう。	へ手紙を書いた生徒の
終	する。	・松本君はすごい	気持ちと共感しながら
末		・松本君の行動から勇気をもらったよ	感想を書かせたい。
		うな気がする	
		・松本君のような行動をしたい	

1 資料・題材について

「松本君への手紙」という資料は,クラスの中で起こったいじめに対して,勇気を持って行動した松本君に共感すると同時に松本君のようにできなかった自分を反省しこれからは,松本君のように勇気を持って行動したいと決意するクラスの仲間のことが中心的に扱われている。

いじめる武藤君,いじめられる池田君, 周りではやしたてる数人の武藤君の仲間, その他大勢の傍観者,いじめを止めようと する松本君の四者が登場しており,いじめ について様々な視点で考えられる資料であ る。

2 指導過程の工夫

主題を強い意志 [1 - (2)] に設定し, 導入では「勇気ある行動」について,これ までの経験を出し合うことで資料の内容に スムーズに入ることができた。

展開では,実際の場面を動作化による提示によって,状況をより実感できるよう工夫した。

終末では,授業の感想と,「勇気とは何ですか?」について考える事により,導入で出された「勇気」から,さらに勇気について深く考えさせようと意図した。

3 発問の工夫

周囲の生徒の,自分がいじめの対象になりたくないという態度が武藤君のいじめを助長させることになっているということは,おさえておきたい。

中心発問の「弁当を黙って片づけたみんなの気持ち」を考える際、「黙って」というところに注目させて考えさせたい。また、「松本君がもしいなかったら、どうなっていただろう」という補助発問によっても勇気や正義について考えさせることができる。

4 生徒の反応

多くの生徒が,資料に対して高い関心を 示した。

- ・松本君のようにはできないかもしれない が,勇気をもちたい。
- ・もし同じようなことが起こったなら,松 本君のように止めたいと思う。
- ・松本君の行動に自分自身が勇気をもらっ た気がする。
- ・これまで武藤君ほどじゃないけど,似たようないじめに遭遇したことがある。その時は何もできなかったけど,松本君のような行動を起こしたいと思った。
- ・武藤君も松本君の行動に何か感じるところがあったようだ。本当の彼は,きっと寂しがり屋なのだと思う。

等,自分の生活と重ね合わせて感想を書く 生徒が多くいた。

5 授業後のフォローアップ

終末で書かれた感想を見ると「勇気」について、「何かに挑戦する勇気」が多かったので、様々な誘惑があった時に「何かを断る勇気」についての学習につなげていった。

(八次中学校)

- (1) 主題名 自由な行動 [小学校高 1-(3)] 関連項目[2-(3)]
- (2)ねらい 友だちとの上下関係の問題に気付き,誰にもとらわれることのない自由と,自 分の考えを大切にし,生活を自らの手でつくっていこうとする意欲を育てる。
- (2) 資料名 「いやといえたとき」(出典:みんなで考える道徳 6年 日本標準)

いじめられていた英子は,高子に「自分のグループに入らないとひとりぼっちにさせる」と言われ,仲間に入る。ある日,他の友だちと遊んでいると「勝手にグループをぬけだすの」と高子に問い詰められる。「どうしてそれがいけないの」と思いきって口にしたことをきっかけに,支えてくれる友だちの存在と,自分の意志をはっきり伝えることの大切さに気付いていく。

(4	·) 学習指導過程		
	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導	1 ゲームをし,	ゲームをしましょう。	リラックスした雰囲気
λ	リラックスす	・どんなゲームかな	をつくるための簡単な
	る。		ゲームを用意する。
	2 資料を読んで,いじめられている英子の気持ちと自由の楽しさに気付くについて考える。	英子さんはなぜ高子さんたちのグループに入ったのでしょう。 ・一人ぼっちになるのがいやだったから ・高子さんがこわかったから 英子さんがゴムだん遊びを心から楽しむことができたのはどうしてでし	自由に遊べたからこそ 心から楽しかったこと
展	2	ょう。 ・遠慮しなくてよかったから ・気をつかわず思い切り遊べたから	を考えさせる。
開	3 自分の思いを 出すことができ たときの気持ち について話し合 う。	高子さんたちに「それがどうしていけないの」と言った場面を役割演技して 英子さんの気持ちを考えましょう。 ・言い返すのはこわい ・言いたいことを言ってすっきりした ・友だちが来てくれてうれしかった	役割演技を取り入れ,実際の状況に近い場面設定をする。高子は指導者が演じ,英子とかけよってくれた明子たちを児童に演じさせる。 役割演技後の話し合い
		すっとからだが軽くなったように感じたのはなぜでしょう。 ・思い切って自分の考えが言えたから ・もう高子さんたちと無理していっしょ にいなくてもいいから	の時間を十分にとる。
終末	4 英子の行動を 通して考えたこ とを書く。	英子さんの行動を通して感じたこと,考えたことを書きましょう。 ・本当のことを言い合える友だちが本当の友だちだ ・いっしょにいて楽しい友だち関係を	自分の気持ちを大切に して対等に友だちと付 き合っていこうとする 気持ちを高める。
		作っていきたい	

1 資料・題材について

英子の行動や心情を通して,友だちに対して自分の考えをはっきり言うことの大切さを考えていく資料である。いじめは,いじめる側に問題があり,いじめられる側に非はない。いじめをはねかえす力の一つとして「自分の考えをはっきり述べる」という行動があることについて考えさせる資料である。また,英子を心配してくれている友だちの存在に気付くという場面を通して友だちの大切さについても感じることができる資料である。

2 指導過程の工夫

役割演技の準備として、導入では、リラックスできるゲームを行った。そして、展開後半で、いつもいじめられている英子動気を出して「(自分の好きなように行動することが)それがどうしていけないの」と、言えた場面を役割演技する活動を取り入れ、それを言った後で自分の心がすっきりした。その役割にて共感させていった。その役割にたつに共感させていった。その役割られることで、いじめられることの不当さについて感じさせることができる。と同時に、友だちが駆け寄ってくれる心強さも感じさせることができる。

これらの役割演技をすることで,いじめの未然防止や,この資料の英子のような状況に立たされることの未然防止につながることを期待している。

3 発問の工夫

展開の前半では状況を把握させていくための発問をした。展開の後半で,役割演技を行った後,英子役の子に「いやと言ったときどんなことを考えましたか」と心情について問い,言い返すことへの勇気や言させていった。そして気持ちなどを発言させていった。そしてそれらの発言をもとにってどうしてすっきりした気持ちになったのだろう」と問いかけることで,胸のつかえがとれたような気持ちになったことを考え,自分の気持ちをはっきり伝える勇気を大切にしていくことについて考えさせた。

4 児童の反応

英子の役割演技をした場面では「高子さんに言い返すのはこわかった」「友だちが来てくれてうれしかった」という意見が出た。

終末での英子の行動を通して考えたことについての感想では、「自分の言いたいことが言えてよかった」という自由の大切さに焦点をあてて考えた感想と「友だちがいてくれてよかった」と友だちの存在に焦点をあてて考えた感想があった。

5 授業後のフォローアップ

自分の考えをはっきり言っていこうとする気持ちをさらに高めていくことことをねらって,終末で書いた感想を学級活動の時間に交流する機会をもった。

(本地小学校)

- (1) 主題名 友情の尊さ〔中学校 2-(3)〕 関連項目〔2-(2)〕
- (2)ねらい 真の友情や友情の尊さについて理解を深め,心から信頼できる友だちを持ち,支え合い励まし合って互いに向上しようとする態度を育てる。
- (3) 資料名 「大切な友達といつまでも」(出典:豊かな生き方2年 創育)

小学校3年生のとき,ある友だちと話していて「いじめ」という言葉を知った私。仲のよかったはずの友だちに無視をされたり悪口を言われたりしていたようで,それを聞いた私は両親に相談する。両親に「力になってあげたら」と言われ,その友だちと何日か楽しい時間を過ごしていると,いじめている人たちから「あの人すごく性格悪いのよ,…」と言われてしまう。しかし,その時以来その友だちとさらに友情を深めることができた。時々私にもいじめをしようとする人がいたけど,そのうちに「ごめんね」と謝りに来た。これらのできごとで私は,自分をしっかりもつことと「ごめんね」という言葉にどれだけ早く素直になれるかということを学んだ。

)子省指導適程		
	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導	1 「友だち」に ついて考える。	友だちがいてうれしかったことはど んな時だろう。	自由な雰囲気で発表させ る。
入		・悩みを聞いてくれたとき ・そばにいて話ができたとき	
	2 資料を読み,そ れぞれの立場の 気持ちを考える。	仲のよかったはずの友だちに無視を されたり悪口を言われたりしたとき の気持ちはどうだろう。 ・なぜいじめられなければならないのか	仲のよかったはずの友だちが悪口を言わざるを得ない理由に気付かせる。
展開		 ・仲良しだったはずなのに悲しいいりのていた人たちが謝りに来て友だちが笑顔で許したのを見て、「私」はどのように思っただろう。 ・謝りに来てくれてホッとした・つらい思いをしたのに、どうして許せるのか不思議である 	いじめていた人の気持ち を理解させる。 いじめていた人たちが ,謝 りに来たのはなぜか考え させる。
用		両親が言った「友だちの力になる」と はどういうことなのだろう ・一緒にいていじめから守る ・自分で判断し行動する	初めはいじめのことを軽く考えていたが ,両親の言葉で友だちとの接し方に変化があらわれたことに気付かせる。
	3 友だちとのつ き合い方につい て考える。	大切な友だちといつまでも気持ちよくつき合えるためにどうすることが必要なのだろう。 ・相手のことを思いやる ・自分の意見をはっきり伝える ・大事なときには勇気をもつ	真の友情や友情の尊さに ついて考えさせる。
終末	4 教師の説話を 聞いて感想を書 く。	真の友情や友情の尊さというものは 互いに相手を理解し,助け合い励まし 合うものであることを考えよう。 ・自分の正しい考えを大切にする 思いがあれば書いてみよう。 ・自分の意見を書く	押しつけにならないよう 配慮し ,実践への励ましと する。

1 資料・題材について

両親から「力になってあげたら」と言われ、いじめられているA子のそばにいることでA子を勇気付ける主人公の「私」。かつていじめていた子が謝りに来たりするので、いじめられている子にとっては、力付けられる資料でもある。また、いじめを解決していくために自分がどう行動すべきかを考えていくことのできる資料である。

2 指導過程の工夫

資料を提示するときに,人間関係が複雑でわかりにくいところがあるので図で示した。また,終わりの3行は筆者の決意が述べてあるが,授業では生徒から引き出したかったので,そこを省いて生徒に提示した。

仲がよかったはずの友達が謝りに来たとき、笑顔で許す友だちの気持ちや、謝りに来たときの気持ちを考えることによって、いじめることの醜さや重みを考えさせた。なかには理解することが難しい生徒や自分のこととして考えて深く落ち込む生徒もいたので、全体に発表するのではなく、ワークシートに書くことで自分の思いと向き合うようにしたところもある。その際、「思いがあれば書いてみよう。」と押しつけにならないよう声かけをした。そうすることによって、生徒は素直な気持ちで書いていた。

3 発問の工夫

「なぜ,いじめていた人たちが謝りに来 たのか。」という理由は,本文に書いてない ので,多様な答えが考えられる発問であった。生徒は,自分の体験や日常生活の思いから答えていた。

4 生徒の反応

友だちといてうれしかったときは生徒に とって考えやすいと思ったが、日常生活の 中でそんなことを考える機会がなくかえっ て答えにくいようだった。

教師の説話は興味深く聞いていた。

友だちのありがたさやよさを感じる生徒 がいた。

- ・いじめられている友だちのそばにいるだけで,力になれることがわかった。 また,いじめをとめたりいじめられている 子に寄り添ったり自分にできることを考え
- ・いじめは怖いけど,いつの日かいじめを やめることができるんだと思った。
- ・たった一言で人の気持ちは変わる。
- ・いじめをやめろというのは勇気がいるけ ど,いじめられる子と一緒にいるくらい ならオレにもできると思った。

5 授業後のフォローアップ

る生徒が多くいた。

大切な友だちといつまでも気持ちよくつ きあうために必要なことについて,それぞ れ生徒が書いた内容を学級通信に載せて学 級の生徒に返していった。

(三原市立第三中学校)

- (1) 主題名 生命の尊重[中学校3-(2)] 関連項目[2-(2) 1-(2)]
- (2)ねらい 生命の尊さを理解し,かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育てる。
- (3)資料名 「だからあなたも生きぬいて」(出典:大平光代著 講談社)

転校先で度重なるいじめを受け、自分を裏切った友人に復讐するため割腹自殺をはかった 私は、意識がもうろうとする中で、祖母の笑顔を思い出し、「生きたい」という気持ちになっ た。通りがかった人に、叫んだ。「たす・・・け・・・て・・」(大平光代著「だからあなた も生きぬいて」より抜粋)

(4)字督指導過程		
	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導入	1 大平さんの写 真を見て,どん な人か考える。	この人は,大平光代さんという方ですが,どんな職業をしている人だと思いますか。 ・保育士 ・先生	小さい頃の写真や家族の写真等も見せ,大平さんが自殺をはかったことを知らせる。
	2 資料を読んで 落書きされた時 の「私」の気持 ち,周りの生徒 の様子,「私」を いじめて笑う女	れの上に落書きされた時の気持ちは どんな気持ちだったろうか。 ・悲しい ・誰がしたんだろう くすくす笑っていた周りの生徒たち	「私」の持って行きよう のない悲しさ不安を理 解させる。 いじめは ,このような人
展	の子の「笑い」 に つ い て 考 え る。	の気持ちはどんなものだろうか。 ・自分でなくてよかった ・「私」を一緒にいじめていないと,次 は自分になるかも知れない 「私」をいじめている女の子の笑い	の心の醜さや弱さから ひどくなっていくこと をおさえる。 人を馬鹿にする笑いが
開	3 「生きたい」	はどんな笑いですか。 ・大勢で一人を馬鹿にしている ・いじめを笑いながらするとてもいや なもの	「私」をますます追いつめていったことを理解させる。
	と「私」が思っ たのはなぜか考 える。	復讐のため自殺をはかった「私」が,「生きたい」と思ったのはなぜだと思いますか。 ・祖母の笑顔を思い出した ・こんなことで死ぬなんてみじめだ ・私には家族がいる	祖母の笑顔が「私」は一 人ではないということ や ,生きる勇気を与えて くれたことをおさえる。
終末	4 教師の説話を 聞いて授業の感 想を書く。	その後の「私」の人生がどうなったかを紹介をします。その後,感想を書いてください。 ・どんなことがあっても生きることって大切だ ・大平さんってすごい	著者の思いにふれながら,感想を書かせたい。

1 資料・題材について

「だからあなたも生きぬいて」という資料は,現在弁護士で活躍されている大平光代さんの半生を綴った実話である。

資料は、第一章いじめの「落書き」「ごみくず」第二章自殺未遂の「裏切り」「命びろい」から一部抜粋して作成した。すさまじいいじめと割腹自殺というショッキングな内容になっているため、本書をよく読み、著者の思いをきちんとつかんで指導すべきである。

2 指導過程の工夫

主題を生命尊重[3-(2)]に設定し, 導入は,著書に掲載されている大平さんの 写真を拡大カラーコピーして見せながら, 大平さんの生育歴や家族構成にふれてから 資料に入った。

展開は,資料本文の中略部分は解説を加 えながら状況の把握をさせていった。

終末は,自殺後の大平さんの人生を説話 の中で語っていった。

3 発問の工夫

中心発問は,主題である生命尊重に迫るべく,どうして「生きたい」と思うようになったかにした。自分を裏切った友人に対するどうしようもない怒りとそれまで受けてきたいじめによって,復讐のために自殺しようと考えた大平さんが,祖母の笑顔によってハッとわれにかえる瞬間をしっかりと考えさせたい。

大平さんを追いつめていく冷ややかで人

間の尊厳を深く傷つける笑いと人間の愛や 慈しみといった温かい祖母の笑顔。どちら にも「笑」の字はあるがその違いの大きさ を考えさせるよう意図した。

4 生徒の反応

多くの生徒が,資料や教師の説話に高い 関心を示した。

- ・大平さんはすごい
- ・生きるのは大切なことだと思った。
- ・私は,1年生の時自殺を考えた。先輩から呼び出されたり,机に悪口を書かれたりした。だけど,家族の支えがあって死なくてすんだ。家族は私の宝です。
- ・私は,いじめる側にいたことがあるので 今はすごく反省しています。いじめてい る時はあんまり深く考えていなかったけ どいじめについて考えるたびに,つらく なります。

等,自分の生活と重ね合わせてこれまでのいじめを受けた経験やいじめをした経験を書く生徒もがいた。

5 授業後のフォローアップ

大平さんのショッキングな半生にふれて 高い関心を持って考えていた。いじめを受けた経験のある生徒にとっては、いじめを 受けている場面の状況はかなりショックを 受けることが予想される。また、いじめを していたことを感想で書く生徒もおり、授 業中での様子や感想をよく把握し、様々な フォローを考えておく必要がある。

(八次中学校)

- (1)主題名 公平・公正 [小学校高4-(3)]
- (2)ねらい 誰に対しても偏見を持つことなく,公正に接していこうとする態度を養う。
- (3)資料名 「森川君のうわさ」(出典:新しい道徳 6年・光文書院)

森川君の夏休みの工作作品に、「大工のお父さんが作った」という噂がクラスで広まった。「違う」と思ったが「ぼく」は黙っていた。3学期、卒業記念のオルゴールづくりで、またも森川君に対して噂がわき起こり、無視も始まった。ある日の帰りの会、順子が噂によって仲間はずれをするクラスのみんなに意見を言い始めた。気になりながらも何もできなかった「ぼく」は、順子の後で「ぼくも発言しなくてはいけない」と思っていた。

\rightarrow)子首拍导则性		
	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導	1 夏休みの宿題 について意見を	夏休みの宿題を思い出して,苦労し たものを発表してみよう。	自由な雰囲気で発表さ せる。
入	発表する。	・工作が難しかった ・ポスターの色塗りが難しかった	
	2 資料を読んで 森川君のうわさ について考え る。	森川君のうわさはどうして広がった のだろう。 ・上手だったから ・お父さんが大工さんだから どうしてそんなうわさが始まったの だろう。 ・うらやましいから	工作作品の写真をいく つか掲示する。(本立て を含めて)
展		・くやしいから だんだん無口になっていく森川君は どんな気持ちだろう。 ・いやだ,さみしい ・どうして口をきいてくれないの ・自分でつくったのに ・だれがうわさを流したのだろう	これまでの経験で関連 のある事象があれば取 りあげて森川君の気持 ちに迫らせる。
開	3 順子さんの発言を聞いているときの「ぼく」の気持ちを考える。	順子さんの発言を聞いている「ぼく」はどんな気持ちでいるだろう。 ・自分には言えなかった,すごい ・自分が情けなくて恥ずかしかった ・森川君に嫌な思いをさせてしまった	「ぼく」のこれまでの気 持ちの経過をおさえる。
	4 この後の「ぼ く」の行動を考 える。	このあと「ぼく」はどんな行動をとっただろうか。 ・2 学期の時にはっきり言えばよかった,ぼくも悪かったと謝った ・みんなにうわさは違うと言えなかったと発言した	「ぼく」自身が反省するだけではなく,まわりのみんなに対する意見も出るように揺さぶりをかける。 行動は発言に限定しない。
終末	5 本時の感想を書く。	「うわさ」について,今日の授業で 思ったこと,考えたことを書いてみよ う。 ・本当かどうか確かめずに話すのはよ くない ・うわさは時間では解決しない	ワークシートに書き込 ませる。

1 資料・題材について

不確かな「うわさ」がいじめの始まるきっかけとなることがる。その背景に存在したねたみ意識などが集団で排除しようとするいじめに発展することやうやむやにしては決して解決しないことなどの視点で子どもたちに考えさせることができる。

児童の中にはこれまでに,「うわさ」におもしる半分で加わったり,いやな思いをしたりした子もいる。その子たちがつらくなる授業にならないように,事前にアンケートなどで実態を把握して,必要に応じて個別指導を行ったり,実施時期を考慮したりする必要がある。

2 指導過程の工夫

導入で、実際の工作作品の写真を提示することで夏休みの作品づくりへのイメージをふくらませた。

展開では、資料を前半,後半場面に区切って提示することで場面の状況を把握しやすかった。

「うわさをする側」「される側」の立場を 経験したことのある児童が多いという実態 があるなら、資料中心にならないように、 児童の生活に視点をあてて、自分たちの生 活を見つめる時間をじっくりとって考えさ せることがより効果的と考えられる。

終末では、ワークシートを用いて,自分の経験を思いだしながら,本時の振り返りができるように設定した。

3 発問の工夫

うわさが広がっていくときの状況を考えさせるために,「このうわさを森川君は知っていると思いますか。それはなぜですか。」という補助発問を行った。

中心発問については,「ぼく」が誰に対しての思いを強くもっているかを明らかにさせてから,理由を考えさせた。

「ぼく」のこの後の行動を考えさせる 発問は、中心発問と重なる部分があるの で、考慮する必要があった。

4 児童の反応

「うわさをきいたことがある」児童は 約7割,「うわさでいやな思いをしたこと がある」児童は約2割いた。

いやな思いをしたことはいつまでも記憶に残っているが,自分が加害者になったという意識は強く残っていないようだ。 経験のある子の発言により,あらためて課題を解決する難しさを考えることができた。

中心発問への発言では,「うわさが始まったときにきちんとした態度をとっておけばよかった。」という内容のものが多かった。

5 授業後のフォローアップ

「うわさ」によるトラブルは,児童の日常生活の中ではよくあることなので,学級指導とあわせて,この学習を意識して生活指導に生かしていく。また,他の「いじめ」の事象と関連させて学級指導を行っていく。

(八次小学校)

- (1) 主題名 公正・公平[中学校 4-(4)] 関連項目[1-(3)][4-(1)]
- (2)ねらい 自分勝手な考え方やグループのような狭い仲間意識にとらわれず,公正・公平 で差別や偏見のない集団生活を営もうとする態度を育てる。
- (3)資料名「シカト」(出典:かけがえのない君だから1年 学研)

同じ学年の友人から「Aさんって,性格,すごく悪いの…。」と内緒話を打ち明けられ,それを信じてAさんを避けるようになった「わたし」。しかし,ある日,廊下でぶつかったことをきっかけに,あいさつや言葉を交わすようになり,Aさんの本当の姿が見えてきた。それに伴い,Aさんに対するイメージが変わってくる。もし,Aさんをシカトしていたらと思うと,背筋が寒くなる思いがした。

(4	·) 字習指導過程		
	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
	1 「シカト」に	「シカト」という言葉から連想することは	資料に関する導入で,身
導	ついて想起す	,	近な問題として考えやす
λ	る。	・無視をする	いように心を開かせる。
		・いじめ	
	2 資料を読ん	A さんとぶつかって ,その場しのぎの言葉	うわさによるAさんのイ
	で「わたし」の	をかけて走って逃げたのは ,「わたし」の	メージをとらえさせる。
	気持ちを考え	どんな気持ちからだろう。	
	る。	・かかわりたくない	
		Aさんがあいさつを交わしたり「わたし」	Aさんの本当の姿をとら
		に話しかけてくれたりするAさんへの気	えさせる。
		持ちが 少しずつよい方に変わってきたの	
		はなぜだろう。	
		・うわさのような悪い人には見えない	
		・優しそうな笑顔で,心の広い人に見えた	
展		もし友人が「シカトしちゃおうよ。」と言	本当の友情とはどういう
		っていたらシカトが広まっていたかも知	ものかを考える。
開		れないと「わたし」が考えたのはなぜだろ	学級集団の中でシカト・
		う。 	いじめがあってもいいの
		・自分が仲間はずれにされてしまう	かを考えさせる。
	0 - 0 /± EA /	・友情を壊したくない	
	3 この体験か	-	自分に重ね合わせ、日常
	らどんな考え	していくためには、どんな考え方や態度	生活をふりかえさせる。
	や態度が大切		
	かを考える。	・人に左右されず,自分自身で相手を理解す	
		る正しい判断をする	
		・誰に対しても差別せず ,温かい心で勇気を 持って行動する	
		ガンに1]割りの	
	4 教師の説話	自分勝手な考え方あるいは狭い仲間意識	押しつけにならないよう
終	をきく。	で物事を考えていたのでは 楽しい学校生	配慮し,実践への励まし
m~		活にならないことを知ってほしい。	とする。
末			

1 資料・題材について

生徒にとっては,一度は聞いたことのある言葉なので,身近な問題として関心の持てる資料であった。

日常生活の発言の中で,「シカト」という 言葉を曖昧に受け止めていた生徒もいたの で,言葉の重みをきちんと整理するために も適切な資料であった。

2 指導過程の工夫

導入では,身近な話題,自分の体験から入ったので,関心を持って授業を進めることができた。

展開では、「もし、シカトが学級や学年にあったら、…」といった資料の場面を日常生活の生徒自身に返すことにより、考えに真剣さと深まりを一層与えることができた。

3 発問の工夫

もし友人が「シカトしちゃおうよ。」と言っていたらシカトして,周りにも広がったのはなぜ?という発問のところで,実際には資料の中でその話がなかったので,「実際に広がらなかったのはなぜか?」ととらえる生徒がいた。

4 生徒の反応

「シカトはいけない」と答える生徒は多かったが,「なぜいけないのか」まで踏み込んで答えが書けていなかった。

友達の意見に流されるのではなく自分の 判断で行動しようとする生徒が多くいた。

- ・人の考えだけで納得をしたらいけない。 自分の意志で行動することが大切だとい うことがわかった。
- ・本当の姿をきちんと見ないといけないと思った。

また,友人関係や本当の友情について考 える生徒がいた。

・シカトや仲間はずしをしようと言う人は ,本当の友だちじゃないなあと思いました。

また,いじめやシカトについて考えた生 徒もいた。

- ・話をしたこともないのに,その人のイメージを勝手につくるのは,いじめやシカトの原因だと思った。
- ・シカトは見たこともあるし,やったこと もあるけど,やって得することは一つも ないことを今日の授業でさらに思った。
- ・私もあの人のことシカトしようと言われたことがあります。ですが私は断りました。私はそれがいいと思ったからです。今日の授業をして本当によかったと思いました。

5 授業後のフォローアップ

帰りの短学活で、シカトされた人の気持ちを再度確認し、フォローした。

また,シカトをしたりいじめをしたりした経験のある生徒の中に,授業中気になった生徒がいたので事後個別に話をした。

(三原市立第三中学校)

- (1)主題名 信頼・協力し合う集団 [小学校| 4-(6)] 関連項目 [2-(3)]
- (2)ねらい 互いに相手の気持ちを理解し、信頼し合って「いじめ」のない明るく楽しい学 級をつくろうとする心情を育てる。
- (3)資料名「これってもしかして」(出典:新しい道徳 6年・光文書院)

「小さないじめの始まりをきちんと解決することが大切」とお父さんに言われたが、自分のクラスにいじめはない、そう思っていた大介。しかし、ある朝仲良しの浩一の上履きが片方なくなる事件が起きた。助けを呼ぼうと教室に行くと、隠した子らの話し声が聞こえ、驚くが何も言えない大介。2人は教室に戻り、黒板のわきにある上履きを見つけるが「このままにしておこう」と大介は浩一に言う。先生の足音が聞こえてきた。

学習活動主な発問と児童の心の動き留意点1 自分たちの学みんなの学級の「じまんできること」具体的な事象を認識していまれる。導 級の「じまんでは何だろう。理由付けさせる。入 きること」を考 ・仲がいい・明るい	挙げて	
導 級の「じまんで」は何だろう。 <td <="" rowspan="2" th=""><th>挙げて</th></td>	<th>挙げて</th>	挙げて
入 きること」を考 ・ 仲がいい		
える ・明るい		
17		
2 資料を読んで 大介のクラスの「じまんできること」 浩一の意見、大介	の思い	
大介の気持ちに は何だろう。 をおさえる。		
ついて考える。・仲がいい		
・優しい人が多い		
上履き探しを手伝ってもらいに教 事件が起きるま	でのク	
室に行ったあと,大介の胸がどきどき ラスへの思いを	おさえ	
したのはなぜだろう。 て対比させる。		
・どうしよう		
・クラスに隠した子がいるなんて		
・浩一くんに何と言おう		
3 周りにいる子 教室に入ってきた2人を見ながら、 笑いをこらえてい		
	-	
る。	して怠	
開け、どうするだろう		
・かわいそうだな		
・やめてほしいな		
大介はなぜ「このままにしておこう」		
と言ったのだろう。		
・先生に気付かせたかった		
4 この後の展開 ・みんながどうするか知りたかった		
を考える。 このあとどう解決していったか考え 解決するという	前提で	
てみよう。 大介,浩一,周り		
・大介がみんなに訴えて解決した 行動を考えさせる		
・隠した人が反省して解決した	=	
5 本時の感想を お父さんの言葉を思い浮かべながら 父の言葉をふり	返らせ	
書く。 今日の学習の感想を書いてみよう。 る	-	
終 ・放っておかずに早く解決するのがい		
末 い		
・友だちが困っているときには自分にで		
きることをしたい		

1 資料・題材について

この資料では、「小さないじめの始まりをきちんと解決することが大切だ。」という父の言葉にあるように、「小さなことだから」と見逃さずに「きちんと解決する」ことの大切さを考えさせることができる。

学級の中には,資料にあるように,いたずら半分で物を隠したり隠されたりした経験をもつ児童がいる。

当事者の思いに迫らせながら周りにいる 子の思いを考えさせることで,学級の問題 を見逃さず,自分たちで解決しようとする 実践力を育てることにつながると考える。

2 指導過程の工夫

導入では、自分たちの学級をプラス面から見つめさせるようにした。(楽しい場面を想起させる働きかけがあればより効果的と考える。)

展開では、教室に向かうときと,教室で 友だちの声を聞いた後の大介の気持ちを対 比しながら考えさせることで,課題に直面 したときの驚きととまどう心情に共感させ ることができた。

今後の展開を考えさせる発問以降の時間 が十分とれるように時間配分を考慮する必 要がある。

終末では、父の言葉を想起させることで,「いじめ」についてどう考えるかを意識させることができたが,反面で父の言葉をそのまま書く子もいたので,自分の思いや,自分の生活を見つめられるような声かけが必要な児童もいた。

3 発問の工夫

中心発問については,実際に教師が教室の中に入ってみせて,どんな気持ちになるかを,その様子を見ながら考えさせた。

この後の展開を考えさせる発問では,解決していくことを前提として,誰の行動がきっかけとなって解決に向かうかを補助発問で考えさせた。

4 児童の反応

実際に上履きを隠された経験のある子が,そのときの思いを発言してくれたことで,自分たちの身近にもある事象だという雰囲気ができ,真剣に考えることができた。

「先生が解決してくれる」という意見に対して、「先生がうまく解決してくれるとは限らない。」という意見が出された。これまでの経験にもとづいた意見であろうが、表面上解決に見えても、きちんと解決するためには、自分たちで話し合わなければならないという意見には多くの子が共感していた。

感想では,自分たちの生活を見つめて 「いじめを解決する」ために大切だと思 うことを書いた子が多くいた。

5 授業後のフォローアップ

「いじめ」をテーマにして,何がいじめなのか,何がいじめにつながるのか,具体的な事例をもとにして,学級活動において考えさせる場を設定した。「小さなことだから」と,事象を見逃さないように,クラスの児童の実態(人間関係)を随時把握して,必要に応じて個別指導や学級指導とあわせて,生活指導を行っていく。

(八次小学校)

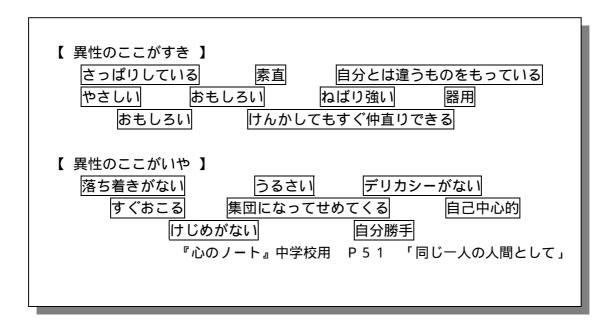
性に関わる問題行動における指導の基本的な考え方は,性とは人間の生き方在り方そのものに関わるものであるということである。したがって児童生徒に対して,性の在り方,異性に対する考え方や行動,人間関係のつくり方などが正しく形成されるように努めることが必要となってくる。

性に関わっては、「異性とどうつきあっていけばよいのか分からない」「恋愛は勉強の妨げになる」「ブルセラ等の性の商品化」「援助交際」「家出」「妊娠・中絶」等、児童生徒を取り巻く状況は深刻である。

こうした状況の中で,問題行動として発生する形態は多様であるが,性に関する問題行動は,児童生徒の心身の健全な発達を阻害するばかりでなく,場合によってはいびつな異性観が形成されたり,人間性をも傷つけてしまう等,重大な内容をももっている。現象としての問題行動の防止にとどまらず,性を人格の基本的部分として捉えることが大切である。

また,性に対して,正しい知識を与えるとともに,児童生徒が生命尊重,人間尊重男女平等等の精神に基づく正しい異性観をもち,望ましい行動をとれるように援助し人格の完成,豊かな人間形成に資することができるようにすることが大切である。

そこで,道徳の時間においては,生命の尊重の精神を育てることや,自己をじっくりと見つめることによって自己理解を深めるとともに,独立した人間それぞれの個性を尊重し,他者に対する信頼や敬愛の念を育むことが大変重要である。その上で,自分の異性に対する姿勢を見直すきっかけとなるような指導をする必要がある。さらに保健体育における性に関する指導等との関連を生かした指導の工夫が望まれる。







「心のノート 小学校5・6年」P.45~46





「心のノート 中学校」P.52~53

- (1) 主題名 男女の協力 [小学校高2-(3)]
- (2)ねらい 男女互いに信頼し友情を深め,協力しあって生活しようとする態度を育てる。
- (3)資料名 「男のくせに女のくせに」(出典:みんなで考える道徳6年日本標準平成11年度版)

近頃「ぼく」たちの学級はおかしい。女子は女子,男子は男子で意見が固まってしまい, 男女で対立してしまう。前はこんなことはなかったのに……。それにはこんなきっかけがあった。サッカー大会のチームを編成するとき,女子が「わたしたちも入れて」と言ってきた。 「女のくせに」「女らしくないぞ」……そんなことを「ぼく」たちが言ってしまってから男女 の対立が始まったのだ。先生の提案でこの問題について話し合いをもつことになった。友だ ちの意見を聞きながら「ぼく」はこのままの関係ではいけないと思い,勢いよく手を挙げた

(4)子首指导迥柱		
	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導	1 異性について	異性に対してのアンケートの結果を見	異性についてアンケー
等	考える。	てみましょう。	トしたものを提示する。
			(参考:「心のノート」
入			中学校版 P.51)
	 2 資料を読んで	男の子と女の子が対立することにな	「自分がそんな言われ
	対立した経緯に	ったのはなぜでしょう。	方をしたらどうかな」
	カムした経緯について話し合	・ のくせに , と決めつけた言い方を	と問いかけ,対立した
	ういて話しらう。	した	きっかけを考えさせる。
	ン。	・お互いにけなしあった	6 7 N 1) & 5 L C C S .
		O D LITELY & COO J LE	
		今のままではいけないと思っている	
		のに対立しつづけているのはどうし	仲良くしたいのだけれ
		てでしょう。	どうまくそれが言い出
		・きっかけがない	せないでいる状況をつ
		・素直に気持ちが言えない	かませる。
展		3,210,43,010,010	
/100	3 「ぼく」の提	いきおいよく手をあげた「ぼく」はみ	
	案を考えること	んなにどんなことを発表したのでしょ	ふきだしを書いたワー
開	をとおしてどの	う。書いてみましょう。	クシートを用意し,
	ようにしていく	・男女みんな仲良くしていこう	「ぼく」の気持ちを出
	ことが大切か話	・決めつけた言い方はやめよう	し合う中で,男女仲良
	し合う。	・お互いの気持ちを大切して話し合うこ	くするために大切なこ
		とが大切だ	とを考えさせたい。
	4 自分たちの生	仲良くしたり協力したりしてよかっ	+ 0 - 4 > - 1 - 1 - 1 - 1 - 1
	活を振り返る。	たという経験はありますか。	自分の生活を振り返り
		・休憩時間に一緒にドッチボールをして	仲良くしたり,協力し
		いて楽しい	たりできてよかったと
		・協力して運動会を盛り上げた	いう思いを思いおこさ
\vdash	5 教師の説話を	男女とも協力しあうことが大切です	せる。 男女ともお互いの存在
終	つ 教師の説品を 聞く。	男女とも励力しのうことが大切です ね。	ラダこもの互いの存在 を意識しがちなもので
w-<	IFI \ o	・つい意識してしまうこともあるけれ	あるが,違いを尊重し協
		ど、仲良くしていこう	力し合っていこうとい
末		・みんなで協力していこう	う意欲を高める。
		STOR CIMIL DICE	ノ心をで回りる。

1 資料・題材について

男女の対立について考えることを通して協力の大切さに気付かせていく資料である。「女のくせに」「男のくせに」といった偏見をもった発言から対立へと発展してしまったクラス。このままではいけないと話し合いをもつという設定である。

話の展開については、児童に理解しやすいものであるが、この資料の中のサッカー大会に女の子を入れるか入れないかで対立するという場面設定は、児童の実態により多少違和感があるかもしれない。しかし、対立はしないまでも、なんとなく素直になれない気持ちには共感をおぼえる資料である。そこで、対立の設定をクラスの状況に応じてより身近な場面設定に改作して使用するなどの工夫をすることで、より児童の心情に迫ることができる資料と考える。

2 指導過程の工夫

導入で提示したアンケートの結果(「心のノート」中学校版 P.51) は児童をひきつける導入としては効果的であった。

また,対立の状況を把握させておいて, 中心発問である「ぼく」のこれからのクラ スをよりよくしていこうとする発言を考え, そして,最後に自分たちのクラスを振り返 るという展開は児童にとってスムーズな展 開であった。

ふだん何気なく接している異性について 意識し,自分たちのクラスと比較しながら 考えていくことで考えが深まった。

3 発問の工夫

できるだけ資料の登場人物の心情に迫らせるため,対立の場面では「自分がそう言われたらどんなことを感じるだろう」と補助発問し,ちょっとした言葉がきっかけとなり,相手を不快な思いにさせ,それが対立へと発展したことに気付かせていった。

中心発問において「ぼく」の発言を考える際,考えを出しにくい児童には,「ゆきこさん」の「このままではよくない」という発言に着目させ「『ゆきこさん』の発言について『ぼく』はどう思っているのかな」と問いかけ,考えを出しやすくさせていった。

4 児童の反応

意識しがちな異性との関わりについて考えていく内容展開で,子どもたちは興味関心をもって授業に参加できた。

自分たちの生活をふりかえる際には「自 分たちのクラスには対立がないからよかっ た」「いやなことを言ってしまったらすぐ 謝って仲良くしたい」などの発言が聞かれ た。

5 授業後のフォローアップ

授業後,授業で使った資料やワークシートを教室に掲示しておくことで道徳の時間で考えたことを振り返ったり,あらためて異性について考えたりするきっかけにしていった。また,学級活動や行事をとらえて,協力することの大切さについて考える機会をもつことでより効果が高まると考える。

(本地小学校)

- (1) 主題名 異性に対する正しい理解 [中学校 2-(4)]
- (2) ねらい 異性に対する理解を深め、信頼と敬愛の念を育み、互いに向上しようとする態度を養う。
- (3) 資料名 「『好き』と『愛する』と」(出典:道しるべ3 正進社)

「好き」と「愛する」って,ちょと違うよね。「好き」っていうのはこちらの一方的な感情ですむかも知れないけれど,「愛する」ってなると,相手の人生をも考えることだよね。愛は一緒に励まし合いながら育つものだよね。お互いを見つめ合っているだけでは愛は育たない。同じ方向をみるってことだよね。愛は甘く切なくて悲しく,そして厳しいもの・・・・。

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
	1 「好き」と「愛	「好き」にはどんなイメージがあり	吹き出しを作って「好
	する」のイメー	ますか。	き」と「愛する」のイメ
導	ジを出し合う。	・愛に比べて,軽い感じ	ージをふくらませるエ
		「愛する」にはどんなイメージがあ	夫をする。
入		りますか。」	
		・簡単には使えない,重い感じ	
	2 次业子生/元		送入元山土 辛口 1. (4.2)*
	2 資料を読んで 「好き」と「愛	「好き」と「愛する」の違いを出し	導入で出た意見と結び つけながら違いについ
	- ´好さ」と`婆 する」について	合ってみよう。 ・「好き」は一方的な感情	フロ なから遅いに フロ て考えさせる。
	する」について 考える。	・「愛する」は相手の人生も考える事	と考えさせる。
	らんる。	・愛という字には「心」がある	
		2CV1911cld 10111000	
	3 「愛は美しく	愛の美しくて尊いところ,甘く切な	ワークシートに記入さ
	尊く,甘く切な	く悲しいところ,そして厳しいとこ	せる。
	く悲しく,厳し	ろとはどんなところですか。	
展	いもの」である	・優しさだけが愛じゃない	
開	ということにつ	・人から愛されることは難しい	
刑	いて考える。		
	4 「愛するとい	「愛することは,互いの命をいとお	相手を大切にしようと
	うことは , 互い	しむことだ」とはどういうことなの	いう気持ちは ,互いを向
	の命をいとおし	だろう。	上させていくことであ
	むことだ」とは	・互いに相手の人生を大事してあげた	るということを考えさ
	どういうことか	いという気持ちをもつこと	せる。
	考える。		
	に初いるされた問	お500は除沙女問いて 人口の哲学	「切土 し「巫士っ の
	5 教師の説話を聞き,授業の感想	教師の体験談を聞いて,今日の授業 の感想を書いてみよう。	「好き」と「愛する」の 違いを再度おさえ,愛す
終	を書く。	・難しい内容だったけど,何年かすれ	さことの意義を深く考
	に自 V ₀	ばわかるのかもしれない	えさせたい。
末		・「愛」は「好き」より深いものだとい	, = = = 101 - 10
		うことがわかった	

1 資料・題材について

「『好き』と『愛する』と」という資料は、内容的にはかなり難しい文章といえる。思春期に入り、性的な関心は高まっているが「愛」や「好き」ということについて深く考えたことがない生徒が多いため、資料の内容に共感するということにはならないことが予想される。したがって、本資料は、少し価値の高い「愛」について考えるきっかけにするという位置付けで取り組んでいくべきである。

「心のノート」P50~P53を活用すると 生徒の関心を高めたりするのに効果的であ る。

2 指導過程の工夫

主題を健全な異性観(信頼と敬愛)[2-(4)]に設定し、導入では「好き」と「愛する」の違いについて考えさ、資料の内容に入りやすくさせる工夫をおこなった。ワークシートでは吹き出しを使って文言を入れるようにし、なるべく考えやすいように工夫した。

展開は、愛するということは、お互いを 心の底から大切に思うことであるというこ とをおさえられるよう、資料の流れにそっ た展開にした。

終末は,教師の体験談をもとにした説話を中心に,「好き」と「愛する」の違いを再度おさえるようにした。

3 発問の工夫

中心発問は、「『愛とは互いの命をいとお

しむことだ』とはどういうことだろうか」 にした。お互いに相手の人生を大切にして あげたいという気持ちを持ってほしいとい う願いをこめてしっかりと考えさせた。

4 生徒の反応

資料については、かなり難解に感じた生徒もいたが、次のような感想があった。

- ・「好き」と「愛する」とでは ,「愛する」 方がなんか奥が深い感じがしました。
- ・今はよく分からないかも知れないけど,何年か後にわかってくることなのかも知れない。
- ・今は,あまりピンとこないけど,これから先,大切になってくることを学習できたと思いました。
- ・今まで ,「好き」と「愛する」の違いなん か考えたことがなかったので , なるほど そうかと感心させられました。
- ・自分なりに今まで , 「好き」と「愛」はな んか違うなと考えていたので , 今日の授 業でその違いがよく分かりました。

5 授業後のフォローアップ

クラスで出た意見については,まとめて 事後に交流する時間を取った。

音楽祭,体育祭,文化祭など,男女の協力が必要になる場面が学校生活には多々ある。その行事の前後に異性の理解をあつかった資料を使って学習することも考えたい。

(八次中学校)

- (1) 主題名 正しい異性理解 [中学校 2-(4)]
- (2) ねらい 男女は,互いに異性について正しい理解を深め,相手の人格を尊重する。
- (3) 資料名 「アイツ」(出典:自分を見つめる 晩教育図書)

突然,母から明日の授業参観のことを持ち出され,ぎょっとした真一は,幼稚園からずっと一緒で近所に住む女の子藤原夏樹が言いつけたことに腹を立てる。次の日の帰り道,真一は昨日の腹立たしさを夏樹にぶつけたが,いつになく青ざめた夏樹の顔を見て,言いすぎたことを後悔し,そんな自分自身が腹立たしく思えてしまう。それから2人は,お互い気になりながらも口をきかなくなる。2ヶ月後,体育の時間にけがをした真一が水道のところに座っていると,夏樹がハンカチをポンと投げて走って行った。家に帰ってからも何度かハンカチを取りだした真一は,夏樹のことが気になってなかなか寝つけなかった。

(4)字督指導過程		
	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導	1 異性を好きに	異性を好きになるってどんなだろう。	自由な雰囲気で発表させ
'	なることについ	・「心のノート」P51 の「異性のここ	る。
入	て話し合う。	がすき・いや」の表を見て意見を	
		出す	
	2 資料を読んで	授業参観のことを母から言われて真	家が近所で幼なじみでもあ
	真一と夏樹のそ	ーは , どんなことを考えただろう。 夏	った2人の関係を押さえて
	れぞれの思いに	樹はどんな思いだっただろう。	おく。
	ついて考える。	・夏樹のおせっかい	真一と夏樹のそれぞれの思
		・きっと知らないから教えてあげた	いを考えていく。
		廊下ですれ違っても口をきかなくな	お節介であるという夏樹の
		ってからの真一や夏樹はそれぞれど	存在が気になっていること
		んな気持ちだったのだろう。	を理解させる。
		・何であんなことを言ったのか	
		夏樹はどんな思いでハンカチを投げ	夏樹のさり気ない行動につ
展		たのだろう。そのときの真一の気持ち	いてその思いをとらえる。
/1.00		はどうだろう。	
		・真一が心配である	
開		・俺のことを気にしているのかな	
	3 今までと違っ	「今までと違った感情」とは , どんな	夏樹の優しさに触れてから
	た感情について	感情だろう。	の気持ちの変化に気付かせ
	出し合う。	・優しさを強く感じるようになった	る。
		・好意を持つようになった	真一の素直な気持ちに気付
		・夏樹が好きになってきた	かせる。
	4 相手を理解す	自分の気持ちをきちんと伝えて ,相手	恥ずかしさを乗り越えて,
	ることを考え	を理解するためには ,どう行動すれば	誤解をまねかないようにす
	る。	いいのだろう。	ることの大切さをつかむ。
		・素直に自分の思いを出す	
		・相手の思いを大切にする	
終	5 教師の説話を	教師の説話を聞いて感想を書こう。	初恋を題材にした説話を準
w-<	聞いて,感想を	・いろいろな思いがあるんだな	備しておく。
末	書く。	・異性について思ったことを書く	

1 資料・題材について

中学生にとって興味関心のある異性についての資料である。第1学年で扱われているが、生徒の発達段階からすると、実態に応じて第2学年で扱う方が効果的であることも考えられる。

2 指導過程の工夫

導入においては ,「心のノート」を活用し , 客観的なデータから自分と重なる意見を見 つけ出し , 関心を持たせた。

資料提示場面では,特に登場人物の思いが出ているところについて思いを込めて読んだ。

また,板書は考えさせる各場面をカードにして中央に貼り,その左右に真一と夏樹のそれぞれの思いを書き,比較しながら心の動きがわかるように示していった。

2人の思いをさらに深くとらえさせるために,口をきかなくなって2ヶ月の間のそれぞれの思いを,いくつかに区切って心の動きを考えていくことも一つの方法かと思われる。

3 発問の工夫

各場面ごとに真一と夏樹のそれぞれの心の動きを双方比較しながら進めていった。とらえにくい生徒には、資料のその場面や夏樹の日記を心を込めて読みながら、それぞれの思いに迫ることができるように話していった。

異性に対する好意や思いを資料をもとに 理解させていったが,生徒の発達段階から とらえにくい生徒もいた。具体的な発問に よって,とらえさせる工夫がいった。

4 生徒の反応

少し照れがあり心を閉ざしたりカモフラージュしたりして,本心で発表しようとする生徒が少なかった。また,異性をとても意識している生徒と,反対にあまり意識しておらず,考えを深めることができにくい生徒との差が大きかった。深く考えた生徒にとっては,異性を理解することの大切さをつかむことができた。

- ・中学生になったらこんな感情になるのか なと思った。
- ・実際にありそうな話だった。
- ・こういうときは素直になればいいんだ。
- ・お互い異性を理解することは大切なこと だと思った。
- ・夏樹がお節介をしていなかったら,真一 も夏樹も今までとは違う感情にはならな かったと思うから,結局夏樹のしたお節 介はよいお節介になったと思った。
 - ・異性を思う気持ちは誰にでもある気持ち だから大切にすればいい気持ちだと思う。

5 授業後のフォローアップ

帰りの会等で担任の経験談などをさらに 交えて,異性を理解することの大切さの話 をした。

(三原市立第三中学校)

(3)家出の指導に生かす

家出の原因・動機をみてみると,家庭や学校等のトラブルから逃れようとする逃避型が目立つ。家庭では,多くの場合,愛情や温もりを感じていなかったり,逆にひどく干渉されているなど居場所を感じなくなっていることが多い。また,学校においても,学習のつまづきや人間関係のひずみなどに起因するケースが多く見られる。

家出の問題については次のような指導を行う。学校においては、学習のつまずきをなくし、望ましい友人関係や教職員との温かい人間関係を築けるように教育活動を工夫する。また、金銭の管理、所持品や服装などに十分気を配ることや安易に外泊をしたり、友人を泊めたりしないよう家庭に協力を求める。家出した児童生徒への対応は温かい態度で接し、本人の気持ちを整理させながら家出をしたくなった気持ちを十分聞き取り、その上で、学校や家庭における指導計画を作成し、家庭と協力しながら指導を行う。

しかし,非行や事件に巻き込まれないようにするだけの表面的な指導に終わること も多く,時間がたてば不安や悩みが増したり,保護者の理解が十分でない場合,真に 子どもを支援する行動に結びつかないまま,また家出を繰り返してしまう場合もある。

そこで,道徳の時間では,家族愛や友情,自己有用感,自己肯定感,自己存在感などについてじっくり考え・感じさせるような学習場面を工夫し,人間関係の修復と自分の居場所づくりのきっかけを作りたい。そして,自分を傷つけ家出という方法で自己表現するのではなく,自分に自信を持ち,一時的な欲求を一旦先送りし,自分にとってより充実した選択ができる耐性を身に付けられるように,児童生徒にアプローチしたい。また,参観日に道徳の時間を設定し,家出する児童生徒の気持ちなどを題材として取りあげたり,保護者の意見も聞きながら親子でともに考えさせるなど保護者参加型の道徳の授業を実施することも効果的である。このように工夫された授業は家庭においても会話の材料となるなど,児童生徒が周りの友人や大人たちの温かい支援を実感できることにつながり,効果的な取り組みになる。

家 出	少	年(のき	学月	職	別	状	教	(平成 14 年) ((警察庁調べ)	
-----	---	----	----	----	---	---	---	---	---	---------	-----	---------	--

	学職別	総数(人)		学	生生・	生徒	<u> </u>	
X	[分		小学生	中学生	高校生	大学生	その他	計
	総数	23,815	1,554	9,646	6,208	271	588	18,267
	うち女子	13,636	463	5,727	4,101	174	273	10,738
	総数に占める 女子の割合(%)	57.3	29.8	59.4	66.1	64.2	46.4	58.8

【Q2】 家出についての指導は、どうすればよいですか。

[A]

次のような指導を行います。

学校においては,学習のつまずきをなくし,望ましい友人関係や教職員との人間関係をつくれるよう教育内容を工夫します。

家庭において、金銭の管理、所持品や服装などに十分気を配るよう保護者に協力を 求めます。

安易に外泊をしたり,友人を泊めたりしないよう家庭に協力を求めます。

家出をした児童生徒は,犯罪の被害者や加害者になる心配があるため,保護者と連携し,保護願いを出し,早期発見に努めます。

家出した児童生徒への事後の対応は,温かい態度で接し,家出をしたくなった気持ちを十分聞き取り,本人の気持ちを整理させます。

家出の原因・動機については,時間をかけて多面的に把握し,学校や家庭における 指導計画を作成し,家庭と協力しながら指導を行うよう努めます。

- (1)主題名 家族愛 [小学校| 4-(5)]
- (2)ねらい 日々の生活は,家族のみんなの愛情によって支えられていることに気付き,家族 と協力して明るい家庭を築いていこうとする心情を育てる。
- (3) 資料名 「 ぼくの家出 」(出典:明日をめざして 6年 東京書籍)

性格が明るく勉強もでき,みんなに好かれている兄と,運動は何をやっても兄よりうまいがその他のことは兄とずいぶん違う主人公「ぼく」。テレビを見終わり,宿題を始めようと立ち上がった時に,母親から宿題がまだ済んでいないことを注意され口答えをしてしまう。その上,父親にも反抗的な態度を叱られ,感情的になって家を飛び出してしまった。町中をさまようが,自分を探す家族の姿を目の当たりにして,自分の軽率な行動を後悔し,家族の愛情に胸がいっぱいになるという内容である。

	4) 字首指导迥柱		
	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
224	1 親にしかられ	○お家の人に叱られ,腹が立つ時はど	自分の思いを ,認めても
導	不満に思った経	ういうときですか。	らえなかった経験を共
入	験を発表しあう。	・勉強をしなさいといわれた時	感的に持って聞きあえ
		・手伝いをしなさいといわれる時	るようにさせる。
	2 資料を読んで	○兄と比べられて,ぼくは両親のこと	空欄のあるワークシー
	「ぼく」の気持	をどう思っていますか。	トを用意し ,兄と比べら
	ちの変化につい	・ぼくばかりおこる親	れて ,自分のことをわか
	て考える。	・ぼくのことをわかってくれない親	ってくれていないと思
		○家を飛び出し,町を歩いているうち	う両親に対する不満を
		にどんな気持ちになっていったでし	考えさせる。
		ょう。	
		・ジュースを飲みながら歩いていると	
		きは親を不満に思っている	
		・おもちゃ屋に入った時は親が恋しく	
		なった	
展		・本屋にいる時は不安になる	勢いで家を出てしまっ
版		○自分のことを心配してくれている家	た「ぼく」の行動を追い
		族のことを知ったときの「ぼく」は	ながら、不安になってい
開		どんな気持ちでしょう。	く心情に気付かせる。
		・心配してくれているんだな	(5 113.12) (113.12)
		・安心した	
		〇「ごめんなさい」という気持ちが声	
		にならず涙をこらえている時の「ぼ	
		く」はどんな気持ちだったでしょう。	
		 ・心配かけてごめんなさい	ウサインストナスラギ
	3 家族に対する	・本当はぼくがわるかった	空欄に当てはまる言葉
	「ぼく」の気持ち	ぼくのことを心配する両親のことを	を考え、始めに考えた言
	を考える。	どう思うようになったでしょう。	葉と比べることで,真の
		・自分のことを大切に思ってくれる	家族の気持ちを考えさ
		一・かけがえのない親	せる。
	4 本時のまとめ	○体験談を読むので,聞きましょう。	○自分のことを本当に心
	をする。	・やっぱり自分を一番わかっているの	配をしてくれているの
終	0	は家族だ	は両親であることに思
末		・最後には自分の気持ちをわかってく	いを寄せさせる。
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		れるのは親だ	【親のこころ】
			1万年堂出版より

1 資料・題材について

自分のことを親身になって捜す家族の姿を通して,自分の行動を反省し,家族に対する信頼感を深く持つことができる内容である。

また,親への反抗的な気持ちが芽生える 時期の児童が主人公の心情や行動に共感し ながら,自分にとって最大の愛情を注いで くれているのは一番身近にいる親であるこ とを再認識できる資料である。

2 指導過程の工夫

児童が,自分の感情を想起できるように, 主人公の感情の変化を追って学習を進めていくように展開を考えた。展開のはじめに親に関する不満な感情に共感させた。そして,内容を追って状況の変化を学習していくうちに,最後には親に対する信頼感に気付かせていくことができた。誰もが持つ親に対する感情が,状況によって変化していく様子に気付かせ,共感させていくことで,自分の生活や内面を省みることができた。

3 発問の工夫

展開のはじめでは、「こんなことあるよね」と生活を省みられるような補助発問をし、自分の内面を主人公の心情に寄り添わせるようにした。

主人公の行動に着目しながら、そのとき「ぼくはどう思っていたのだろう」と問いかけ、考えにくいときには「自分だったらどう感じるか」と発問し、自分にもありうるかもしれない心情の変容であることに共

感させた。

4 児童の反応

主人公の心情の変化に共感しながら学習をしていた。親のことを「うるさい」とか「自分のことを理解してくれていない」ということで不満を感じ、投げやりな気持ちになることもあるが、やはり最終的に自分のことを一番心配し、親身になって考えてくれるのは親であることに改めて気付き、親に対する信頼感を強めていた。

- 親ってこういうもんなんだなと思った。
- 時々親は全然わかってくれていないと 感じる時もあるけど、やっぱり親は心配 するんだなと思った。

5 授業後のフォローアップ

感想に自分の生活や家族への不満などを 書いた児童には個別指導を行い,保護者と 連携を取って共に考えていきたい。

保護者懇談会などで子どもたちの心の成長を紹介し,自我の芽生えによる自立した考えや,その反面親に対するやさしい思いを紹介し,子どもの内面の成長をともに考えていくきっかけにしたい。

また,保護者参加型の授業を計画し,親 の立場からの意見を交えると親の願いがよ り深く感じられるであろう。

(藤の木小学校)